

演習問題

1. 以下の関係式を証明せよ．ただし $f(x, y)$ は微分可能な任意の関数である．

$$(1) \frac{d}{dt} f(x(t), y(t)) = \frac{\partial f}{\partial x} \cdot \frac{dx}{dt} + \frac{\partial f}{\partial y} \cdot \frac{dy}{dt}$$

$$(2) \frac{\partial}{\partial x} \frac{\partial}{\partial y} f = \frac{\partial}{\partial y} \frac{\partial}{\partial x} f$$

2. $2n + 1$ 個の変数を持つ関数 $L(q_1, \dots, q_n, v_1, \dots, v_n, t)$ に, 変数 t の関数 $q_i(t)$ ($i = 1, \dots, n$) とその導関数 $\dot{q}_i(t) = \frac{dq_i}{dt}$ ($i = 1, \dots, n$) を代入して, t について $t_1 \leq t \leq t_2$ の範囲で積分して作用

$$S = \int_{t_1}^{t_2} L(\mathbf{q}(t), \dot{\mathbf{q}}(t), t) dt = \int_{t_1}^{t_2} L(q_1(t), \dots, q_n(t), \dot{q}_1(t), \dots, \dot{q}_n(t), t) dt$$

の値を定める．ここで $\mathbf{q} = (q_1, \dots, q_n)$, $\dot{\mathbf{q}} = (\dot{q}_1, \dots, \dot{q}_n)$ という書き方をした． $\eta_i(t)$ ($i = 1, \dots, n$) を微分可能な任意の関数で $\eta_i(t_1) = \eta_i(t_2) = 0$ を満たすものとする． ε を実数変数とし, $\varepsilon = 0$ のところで S の値が極小または極大になるという条件

$$\begin{aligned} 0 &= \left. \frac{d}{d\varepsilon} \int_{t_1}^{t_2} L(\mathbf{q}(t) + \varepsilon \boldsymbol{\eta}(t), \dot{\mathbf{q}}(t) + \varepsilon \dot{\boldsymbol{\eta}}(t), t) dt \right|_{\varepsilon=0} \\ &= \left. \frac{d}{d\varepsilon} \int_{t_1}^{t_2} L(q_1(t) + \varepsilon \eta_1(t), \dots, q_n(t) + \varepsilon \eta_n(t), \dot{q}_1(t) + \varepsilon \dot{\eta}_1(t), \dots, \dot{q}_n(t) + \varepsilon \dot{\eta}_n(t), t) dt \right|_{\varepsilon=0} \end{aligned}$$

から n 個のオイラー・ラグランジュ方程式

$$\frac{d}{dt} \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_i} - \frac{\partial L}{\partial q_i} = 0 \quad (i = 1, \dots, n)$$

を導け．

3. 以下の力 $\mathbf{F} = (F_x, F_y, F_z)$ に対する位置エネルギー $V(x, y, z)$ を求めよ．ただし, 位置エネルギー $V(x, y, z)$ は

$$-\frac{\partial V}{\partial x} = F_x, \quad -\frac{\partial V}{\partial y} = F_y, \quad -\frac{\partial V}{\partial z} = F_z$$

の3つの式を同時に満たす関数である．また, m, g, a, b, c は実数定数である．

$$(1) \mathbf{F} = (0, 0, -mg)$$

$$(2) \mathbf{F} = (a, b, c)$$

$$(3) \mathbf{F} = (ax, by, cz)$$

$$(4) \mathbf{F} = (ay, ax, 0)$$

$$(5) \mathbf{F} = \left(\frac{x}{(x^2 + y^2 + z^2)^{3/2}}, \frac{y}{(x^2 + y^2 + z^2)^{3/2}}, \frac{z}{(x^2 + y^2 + z^2)^{3/2}} \right)$$

4. 地面に平行な x 軸と、地面に垂直で上向きの y 軸を設定する．このような xy 平面を鉛直平面という． $y = -x \tan \alpha$ (α は定数) で表される斜面を質量 m の質点が動くとする． r を一般化座標として (つまり $r(t)$ を時間変化する独立変数として), 斜面上の質点の位置を

$$x = r \cos \alpha, \quad y = -r \sin \alpha$$

で表す．質点には下向きに一定の重力 mg が働いており, 摩擦力は働いていないとする．ラグランジアン

$$L = \frac{1}{2}m(\dot{x}^2 + \dot{y}^2) - mgy$$

を r と \dot{r} だけの関数に書き換えて, r に対するオイラー・ラグランジュ方程式を求めよ．また, その方程式の初期値問題を解け (関数 $r(t)$ を $r(0)$ と $\dot{r}(0)$ と t の式で表せ, という事) ．

5. 地面に水平な x 軸と, 地面に垂直で上向きの y 軸を設定し, $y = \frac{1}{2a}x^2$ (a は定数) で表される曲線に拘束されて質量 m の質点が動くとする．質点には下向きに一定の重力 mg が働いており, 摩擦力は働いていないとする．ラグランジアン

$$L = \frac{1}{2}m(\dot{x}^2 + \dot{y}^2) - mgy$$

を一般化座標 x と \dot{x} だけの関数に書き換えてオイラー・ラグランジュ方程式を求めよ．

6. 3次元空間中で地面に垂直な軸の周りを半径 a の円周が一定の角速度 ω で回転している．この円周上に拘束されている質量 m の質点を考える． θ を一般化座標として, 質点の位置を

$$x = a \sin \theta \cos \omega t, \quad y = a \sin \theta \sin \omega t, \quad z = -a \cos \theta$$

で表す．質点には下向きに一定の重力 mg が働いており, 摩擦力は働いていないとする．

- (1) ラグランジアン

$$L = \frac{1}{2}m(\dot{x}^2 + \dot{y}^2 + \dot{z}^2) - mgz$$

を θ と $\dot{\theta}$ だけの関数に書き換えてオイラー・ラグランジュ方程式を求めよ．

- (2) 質点が円周に対して相対的に動かない解, すなわち, 任意の時刻 t に対して $\theta(t) = \theta_0 = \text{一定}$ となるような解をすべて求めよ (ヒント: 上で求めたオイラー・ラグランジュ方程式に $\dot{\theta} = 0, \ddot{\theta} = 0$ を代入して θ を求める) ．このような θ_0 で表される点を「動かない点, 釣り合っている点」という意味で平衡点という．

7. 平面上の動かない点 P の座標を (x_0, y_0) とする . また , 平面において , 方程式 $ax + by + c = 0$ で表される直線 l 上の点 Q の座標を (x, y) とする . 点 Q を直線 l に沿って動かして , 2 点 P, Q の距離が最短となるような点 Q の位置と , そのときの線分 PQ の長さを , 以下の 2 通りの方法で求めよ .

- (1) (消去法) 線分 PQ の長さの 2 乗を

$$f(x, y) = (x - x_0)^2 + (y - y_0)^2$$

と書く . 求めたいのは , 拘束条件 $ax + by + c = 0$ のもとで f の値を最小にするような (x, y) である . 次の手順で解け . i) 方程式 $ax + by + c = 0$ を y について解いて , y を x の式で表せ . ii) この式を f に代入して f を x だけの関数で表せ . iii) そうして f の値を最小にするような x を求めよ . iv) そして , そのときの y と f の値を求めよ . v) この f の平方根が PQ の最短距離である .

- (2) (ラグランジュの未定乗数法) 実数変数 λ を導入して

$$F(x, y, \lambda) = (x - x_0)^2 + (y - y_0)^2 - \lambda(ax + by + c)$$

を定め , (x, y, λ) を無制限に動かして F の値を最小にするような (x, y, λ) を求めよ . また , そのときの F の値を求めよ . これらの結果を (1) の結果と比べよ .

8. 地面に水平な x 軸と , 地面に垂直で上向きの y 軸を設けた鉛直平面上を 2 つの質点が動く . 質量 m_1 の質点の座標を (x_1, y_1) , 質量 m_2 の質点の座標を (x_2, y_2) とする . これらは , 拘束条件

$$y_1 = 0, \quad (x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2 = a^2$$

を満たすとする . つまり , 質点 1 は x 軸に沿って動き , 質点 1 と 2 は長さが a の棒でつながれている . この拘束条件を満たす質点の位置は , 一般化座標 (x, ϕ) を用いて

$$x_1 = x, \quad y_1 = 0, \quad x_2 = x + a \sin \phi, \quad y_2 = -a \cos \phi$$

と表すことができる .

- (1) ラグランジアン

$$L = \frac{1}{2}m_1(\dot{x}_1^2 + \dot{y}_1^2) + \frac{1}{2}m_2(\dot{x}_2^2 + \dot{y}_2^2) - m_1gy_1 - m_2gy_2$$

を $(x, \phi, \dot{x}, \dot{\phi})$ の関数として表せ . そして , オイラー・ラグランジュ方程式を導け .

- (2) 上で求めたラグランジアン $L(x, \phi, \dot{x}, \dot{\phi})$ はじつは x に依存しないことを確認せよ . このことから保存量を一つ見つけよ .

- (3) 上の事実を使って ϕ に対するオイラー・ラグランジュ方程式を簡単化せよ .

9. (ネーターの定理) ε を微小な (0 に近い) 実数パラメータとして, 一般化座標 q_i ($i = 1, \dots, n$) に $q_i \rightarrow q'_i = q_i + \varepsilon f_i(q)$ という変換を施したときラグランジアンが

$$L(\mathbf{q} + \varepsilon \mathbf{f}, \dot{\mathbf{q}} + \varepsilon \dot{\mathbf{f}}, t) = L(\mathbf{q}, \dot{\mathbf{q}}, t)$$

のように不変であるとする. このとき, $q(t)$ がオイラー・ラグランジュ方程式を満たすならば, 保存則

$$\frac{d}{dt} \left(\sum_{i=1}^n \frac{\partial L}{\partial \dot{q}_i} f_i \right) = 0$$

が成り立つことを証明せよ.

10. 3次元ベクトル

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} A_x \\ A_y \\ A_z \end{pmatrix} \quad \mathbf{B} = \begin{pmatrix} B_x \\ B_y \\ B_z \end{pmatrix}$$

の内積と外積をそれぞれ

$$\mathbf{A} \cdot \mathbf{B} = A_x B_x + A_y B_y + A_z B_z, \quad \mathbf{A} \times \mathbf{B} = \begin{pmatrix} A_y B_z - A_z B_y \\ A_z B_x - A_x B_z \\ A_x B_y - A_y B_x \end{pmatrix}$$

で定める. 内積は実数であり, 外積はベクトルである. ベクトル \mathbf{A} のノルムと呼ばれる数を

$$\|\mathbf{A}\| = \sqrt{\mathbf{A} \cdot \mathbf{A}} = \sqrt{(A_x)^2 + (A_y)^2 + (A_z)^2}$$

で定める. 以下の関係式が成り立つことを証明せよ.

$$\mathbf{B} \cdot \mathbf{A} = \mathbf{A} \cdot \mathbf{B}, \tag{1}$$

$$\mathbf{B} \times \mathbf{A} = -\mathbf{A} \times \mathbf{B}, \tag{2}$$

$$\mathbf{A} \times \mathbf{A} = \mathbf{0}, \tag{3}$$

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot \mathbf{C} = (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) \cdot \mathbf{A} = (\mathbf{C} \times \mathbf{A}) \cdot \mathbf{B}, \tag{4}$$

$$\mathbf{A} \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = 0, \tag{5}$$

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = \|\mathbf{A}\|^2 \|\mathbf{B}\|^2 - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{B})^2, \tag{6}$$

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \times \mathbf{C} = (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C})\mathbf{B} - (\mathbf{B} \cdot \mathbf{C})\mathbf{A}, \tag{7}$$

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \times \mathbf{C} + (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) \times \mathbf{A} + (\mathbf{C} \times \mathbf{A}) \times \mathbf{B} = \mathbf{0}, \tag{8}$$

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{D}) = (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{D}) - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{D})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{C}), \tag{9}$$

$$\|\mathbf{A}\| \|\mathbf{B}\| \geq |\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}|. \tag{10}$$

11. 3次元ベクトル \mathbf{A}, \mathbf{B} の外積 $\mathbf{A} \times \mathbf{B}$ のノルムは, 2つのベクトル \mathbf{A}, \mathbf{B} を2辺とする平行四辺形の面積に等しいことを示せ. $\mathbf{A} \times \mathbf{B}$ は, \mathbf{A}, \mathbf{B} の両方に垂直なベクトルであることを示せ. また, $\mathbf{A}, \mathbf{B}, \mathbf{A} \times \mathbf{B}$ の順に右手系をなすことを示せ.

12. 3次元ベクトル A と, ノルムが1のベクトル n と, 微小な実数 ε に対して, n を軸としてベクトル A を角度 ε だけ回転させたとき, A は

$$\delta A = \varepsilon n \times A$$

の分だけ変化することを示せ.

13. N 個の質点からなる系を考える. それぞれの質量は m_1, m_2, \dots, m_N , 位置ベクトルは r_1, r_2, \dots, r_N とする. ラグランジアンは

$$L = \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i \dot{r}_i \cdot \dot{r}_i - V(r_1, r_2, \dots, r_N)$$

で与えられる. 質点系はオイラー・ラグランジュ方程式に従って運動しているとする. このとき以下の問に答えよ.

- (1) 3次元ベクトル a と任意の実数 ε に対して

$$V(r_1 + \varepsilon a, r_2 + \varepsilon a, \dots, r_N + \varepsilon a) = V(r_1, r_2, \dots, r_N)$$

が成り立つならば, 位置エネルギー V はベクトル a の方向に並進不変であるという. このとき,

$$\frac{d}{dt} \left(a \cdot \sum_{i=1}^n m_i \dot{r}_i \right) = 0$$

が成り立つことを示せ. この結果は, 質点の運動量の総和の a の方向成分が保存量であることを意味している.

- (2) 3次元ベクトル n と任意の微小実数 ε に対して

$$V(r_1 + \varepsilon n \times r_1, r_2 + \varepsilon n \times r_2, \dots, r_N + \varepsilon n \times r_N) = V(r_1, r_2, \dots, r_N)$$

が成り立つならば, 位置エネルギー V はベクトル n を軸とする回転に関して不変であるという. このとき,

$$\frac{d}{dt} \left(n \cdot \sum_{i=1}^n m_i r_i \times \dot{r}_i \right) = 0$$

が成り立つことを示せ. この結果は, 質点の角運動量の総和の n 方向成分が保存量であることを意味している.

14. 以下の手順に従って, 関数 $f(x)$ をルジャンドル変換した関数 $g(p)$ を求めよ.

(i) 関数 $y = f(x)$ のグラフを描け.

(ii) $p = f'(x)$ を求めて, 横軸を x , 縦軸を p とするグラフを描け.

(iii) この式を x について解いて x を p の式で表せ. 横軸を p , 縦軸を x として, この関数 $x = \psi(p)$ のグラフを描け.

(iv) $g(p) = f - px$ を計算して x を消去して g を p だけの式で表せ. 横軸を p , 縦軸を g として, この関数のグラフを描け.

(v) $x = -g'(p)$ を計算せよ. これが (iii) で求めた $x = \psi(p)$ と一致することを確認せよ.

以上の (i) から (v) までの手順を以下のすべての関数について繰り返せ.

$$(1) f(x) = \frac{1}{2}x^2$$

$$(2) f(x) = -\sqrt{1-x^2} \quad (-1 < x < 1)$$

$$(3) f(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}(x+1)^2 & (x \leq -1) \\ 0 & (-1 < x < 1) \\ \frac{1}{2}(x-1)^2 & (x \geq 1) \end{cases}$$

$$(4) f(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}x(x-2) & (x \leq 0) \\ \frac{1}{2}x(x+2) & (x > 0) \end{cases}$$

$$(5) f(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}(x+1)^2 + 1 & (x \leq -2) \\ -x - \frac{1}{2} & (-2 < x \leq -1) \\ \frac{1}{2}x^2 & (-1 < x \leq 1) \\ x - \frac{1}{2} & (1 < x \leq 2) \\ \frac{1}{2}(x-1)^2 + 1 & (2 < x) \end{cases}$$

$$(6) f(x) = \begin{cases} -x - 1 & (x \leq -2) \\ -\frac{1}{2}x & (-2 < x \leq 0) \\ \frac{1}{2}x & (0 < x \leq 2) \\ x - 1 & (2 < x) \end{cases}$$

15. 関数 $L(\mathbf{q}, \mathbf{v}, t) = L(q_1, \dots, q_n, v_1, \dots, v_n, t)$ から導関数

$$p_i = \frac{\partial L}{\partial v_i} = p_i(\mathbf{q}, \mathbf{v}, t) \quad (i = 1, \dots, n)$$

を定める. この式を v_i について解いて関数

$$v_i = v_i(\mathbf{q}, \mathbf{p}, t) \quad (i = 1, \dots, n)$$

を定めることができたとする．この関係式を使うことによって

$$\begin{aligned} H(\mathbf{q}, \mathbf{p}, t) &= \sum_{i=1}^n p_i v_i - L \\ &= \sum_{i=1}^n p_i \cdot v_i(\mathbf{q}, \mathbf{p}, t) - L(\mathbf{q}, \mathbf{v}(\mathbf{q}, \mathbf{p}, t), t) \end{aligned}$$

を変数 $(\mathbf{q}, \mathbf{p}, t)$ の関数として表すことができる．このとき， $(\mathbf{q}, \mathbf{p}, t)$ を独立変数として扱って，以下の関係式が成り立つことを確かめよ：

$$\begin{aligned} \frac{\partial H}{\partial p_j} &= v_j + \sum_{i=1}^n p_i \frac{\partial v_i}{\partial p_j} - \sum_{i=1}^n \frac{\partial L}{\partial v_i} \frac{\partial v_i}{\partial p_j} = v_j, \\ \frac{\partial H}{\partial q_j} &= \sum_{i=1}^n p_i \frac{\partial v_i}{\partial q_j} - \left(\sum_{i=1}^n \frac{\partial L}{\partial q_j} + \sum_{i=1}^n \frac{\partial L}{\partial v_i} \frac{\partial v_i}{\partial q_j} \right) = -\frac{\partial L}{\partial q_j}. \end{aligned}$$

さらに， $q_j(t)$ を時刻 t の関数とし， $v_j = \dot{q}_j(t)$ を代入し，オイラー・ラグランジュ方程式を用いて

$$\begin{aligned} \dot{q}_j &= \frac{\partial H}{\partial p_j}, \\ \dot{p}_j &= -\frac{\partial H}{\partial q_j} \quad (j = 1, \dots, n) \end{aligned}$$

が成り立つことを示せ．この式はハミルトンの運動方程式とか正準運動方程式と呼ばれる．関数 H はハミルトニアンと呼ばれる．

16. 3次元空間の座標を (x, y, z) ，時刻を t で表す．関数 $\phi(x, y, z, t)$ と $A_x(x, y, z, t)$ ， $A_y(x, y, z, t)$ ， $A_z(x, y, z, t)$ は微分可能な関数とする．時刻 t における質点の位置を $\mathbf{r}(t) = (x(t), y(t), z(t))$ とし，質量 m の質点のラグランジアンを

$$L = \frac{1}{2}m(\dot{x}^2 + \dot{y}^2 + \dot{z}^2) + \dot{x}A_x + \dot{y}A_y + \dot{z}A_z - \phi$$

とする．このラグランジアンに対するオイラー・ラグランジュ方程式が

$$\begin{aligned} m\ddot{x} &= -\frac{\partial \phi}{\partial x} - \frac{\partial A_x}{\partial t} + \dot{y} \left(\frac{\partial A_y}{\partial x} - \frac{\partial A_x}{\partial y} \right) - \dot{z} \left(\frac{\partial A_x}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial x} \right), \\ m\ddot{y} &= -\frac{\partial \phi}{\partial y} - \frac{\partial A_y}{\partial t} + \dot{z} \left(\frac{\partial A_z}{\partial y} - \frac{\partial A_y}{\partial z} \right) - \dot{x} \left(\frac{\partial A_y}{\partial x} - \frac{\partial A_x}{\partial y} \right), \\ m\ddot{z} &= -\frac{\partial \phi}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial t} + \dot{x} \left(\frac{\partial A_x}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial x} \right) - \dot{y} \left(\frac{\partial A_z}{\partial y} - \frac{\partial A_y}{\partial z} \right) \end{aligned}$$

となることを示せ．また，正準運動量を

$$\begin{aligned} p_x &= \frac{\partial L}{\partial \dot{x}} = m\dot{x} + A_x, \\ p_y &= \frac{\partial L}{\partial \dot{y}} = m\dot{y} + A_y, \\ p_z &= \frac{\partial L}{\partial \dot{z}} = m\dot{z} + A_z \end{aligned}$$

で定める．このときハミルトニアン

$$H = p_x \dot{x} + p_y \dot{y} + p_z \dot{z} - L$$

を $(x, y, z, p_x, p_y, p_z, t)$ の式で表せ．

参考文献

- [1] ランダウ, リフシッツ 『力学 (増訂第3版) ランダウ=リフシッツ理論物理学教程』東京図書 (1986).
- [2] ランダウ, リフシッツ 『力学・場の理論 ランダウ=リフシッツ物理学小教程』ちくま学芸文庫 (2008).
- [3] 大貫義郎 『解析力学』物理テキストシリーズ 2, 岩波書店 (1987).
- [4] ゴールドスタイン 『古典力学 上・下巻』吉岡書店 (第2版 1983, 第3版 2006).
- [5] 和達三樹 『物理のための数学』物理入門コース 10, 岩波書店 (1983).